

## JOMF 派遣医師便り (2018.11)

### ◆マニラ◆

#### トイレの中から“コード・ブルー（緊急事態発生）”

マニラ日本人会診療所  
菊地 宏久

初めて日本に旅行したフィリピン人女性から聞いた話です。

期待に胸を弾ませホテルに着いて、ほっとして、ロビーのトイレで普段通りに用を足しました。用を足した後、トイレの水を流そうと個室をキョロキョロ見渡しましたがボタンがいっぱいあってどれを押したらよいのかわかりません。そのまま“知らんぷり”して出てしまおうかと思いましたが、それも気が引けたので、思い切って壁に付いているボタンを押しました。すると、なんと、大きな音のブザーが“ビー”とトイレの外まで鳴り響き始めました。

直ちにセキュリティ担当者と思われる男性が二人、女性トイレ内に入って来たようで、ドアを“ドンドン、ドンドン”と叩きながら日本語で何か叫んでいます。でも何を言っているのかわかりません。おそらく「大丈夫ですか、どうしましたか？」と叫んでいたのでしょう。女性は外で何の騒ぎが起こっているのかわからず、トイレの中でとても不安になってしまいました。「何が起こったかはわからないがとんでもないことをしでかしたに違いない」と感じてきました。「水を流すはずのボタンを押したつもりだが、非常事態を知らせるボタンを押してしまったんだ、大変なことをしてしまったんだ」と女性はだんだん解ってきました。外では大きな騒ぎになっている、多数の人々の興奮した声が聞こえる。「どうしよう、どうしよう」。外部の人が何を言っているのかわからない。右と左にお尻を振りながら、「どうしよう、どうしよう」。「助けてほしいけれどドアは開けるのも恥ずかしい、どうしよう、どうしよう」。

間もなく友人のフィリピン人女性がトイレの中に駆けつけてきてくれてタガログ語で会話をしてくれました。ようやく外に出ることができました。その女性は「ああ、神様が来てくれた」と思いました。

事が終わってホテルのスタッフがそれぞれの持ち場に戻った後、フィリピン人の友人が、「心筋梗塞でなくてよかったね」、「脳梗塞でなくてよかったね」と励ましてくれましたが複雑な気持ちでした。

様々な設備は日本人にとっても使用法が難しい場合があります。日本でのトイレやシャワー室の使用法は外国人にとっても丁寧に説明してあると助かりますね。特に女性からは質問しにくい内容です。

フィリピンに住んでいるといろいろな異文化に出会います。驚いたり、失敗したり、感

動したり、いろいろなことがありますね。例えば、国によっては必ずしも紙でお尻を拭くとは限りません。文化や習慣が異なれば日本人の常識と異なることもあります。

“相手を理解する、受け入れる”とはその人の育ってきた文化や習慣も理解することだと再認識させてくれたお話でした